



一般財団法人

THE LIFE PLANNING CENTER FOUNDATION

ライフ・プランニング・センター

いのちを支える
手であるために

教育医療・「新老人の会」

6

2019
Vol.4/No.6

CONTENTS

財団からのお知らせ
ホスピスニュース
「新老人の会」の活動から

最近の話題

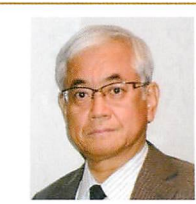
「ゲノム解読から始まり、人生会議で終わる人生」

医療法人錦秀会 阪和第一泉北病院 認知症疾患センター長
日野原重明記念「新老人の会」大阪 世話人代表

三木哲郎

寿命を決定する因子や病気のなりやすさなどは、遺伝と環境の相互作用によって決定されています。寿命は、がんや循環器等の病気のなりやすさなどの遺伝因子によっても決定されていますが、近年、寿命が延長した大きな原因は、衛生環境の改善、医療の進歩などの環境因子によるものであると考えられます。ヒトの体の設計図であるゲノムの30億塩基対の配列のうち、集団間では約300個に一つ程度の違い、すなわち約一千万箇所の相違点が認められています。個人間では数百万箇所の違いが、個体間の身長や髪の色といった表現型の相違、生活習慣病に罹りやすさや、薬の効果や副作用出現の相違を生み出しています。一人のヒトの全ゲノム配列決定には、時間も短縮され解読精度

■みき てつこう



医療法人錦秀会 阪和第一泉北病院 認知症疾患センター長
大阪府ノルディック・ウォーク連盟会長
愛媛大学名誉教授
専門 老年医学 認知症、ゲノム医学

も上がり経費も数十万円まで軽減されてきました。具体的には、個々のがんの原因となる遺伝子を調べて、治療法に役立てる方法が始まっており、近い将来、病気の治療法の選択にゲノム情報をAI（人工知能）で分析し、利用する時代になると考えます。各人に適合したオーダーメイド医療、あるいはプレジジョン・メディシン（Precision Medicine・精密医療）が実践され、さらに寿命は延長すると予測されます。寿命が延びた結果、「寝たきり」と「認知症」が増加してきました。「寝たきり」は、メタボからロコモ・フレイルにならないように自己管理と適切な介入が大切です。しかし、「認知症」の原因疾患の7割以上を占めるアルツハイマー型認知症の有効な予防法・治療法は開発されていません。認知症により意思疎通が困難で、座れない、笑わない患者さんが口から食べ物を摂取できなくなった場合は、胃ろう（腹壁と胃内をつないだチューブ）からの栄養・水分補給を日本老年医学会では勧め

いません。理由は、胃ろう造設が、その人のためにならないからです。

厚生労働省は、人生の最終段階において治療方針を決定する前に「人生会議」を開催するように啓蒙活動を行っております。その人らしく尊厳をもって過小でも過剰でもないエンディングを指して話し合う過程を大切にしましょうということ。 「一人を決めない」「一度に決めない」「紙か録音で記録は残す」「最終決定はなく結論は変わるのが当たりまえ」をモットーに元気な時から家族の中での「人生会議」で話し合いです。ちなみに、毎年十一月三十日（いい看取り・看取られの日）は、「人生会議の日」、人生の最終段階における医療・ケアについて考える日となりました。

以上、私の生涯の研究課題である「ゲノム医学」と、日々の臨床で直面しています「終末期医療」について紹介させていただきます。



「新老人の会」で真田ゆかりの地を巡る
「ノルディック・ウォーク」 2016/12/4
後列の右端：筆者、右から3番目：荻原俊男前代表、4番目：前田松和事務局長